

第41回日本パラ水泳選手権大会

二次要項

1 競技規則と競技方法

- (1) 本大会は、クラス S/SB/SM1～14 は、世界パラ水泳連盟(WPS) 競技規則を基にした競技運営指針「競泳規則」と本大会要項により実施する。国際クラスに該当しない視覚障がいと肢体不自由選手のクラスは、S/SB/SM21 として実施し、競技運営指針「競泳規則」を準用する。S/SB/SM15 は、世界水泳連盟(WA) 競泳競技規則により実施する。内容の主なものについては(一社)日本パラ水泳連盟(JPSF)「競技運営指針」を参照すること。
- (2) 競技方法は、リレーは予選決勝を行うこととしていたが、エントリーチーム数が 8 チーム以下であったため、予選は行わない。個人種目はタイムレース決勝とする。複数のクラスが同時に行われた記録の処理はクラス毎とする。
- (3) 本大会では、JPSF の「競技者資格規程」(別添参照)が適用されるので、スポーツマンシップに留意すること。
 - *水着、広告規制、装飾品など招集所でチェックするので、その旨心得ること。
 - *テーピングやサポーターも禁止されている。絆創膏などもテーピングとみなされる。ただし傷を保護するために行う場合は、審判長の指定した役員の許可が必要で、「テーピング等申請用紙」を提出すること。
 - *障害上、医療用具(ストーマ、カテーテル等)を装着して泳ぐ場合は、テーピングと同じく「テーピング等申請用紙」を提出し、審判長の指定した役員の許可が必要である。
 - *「テーピング等申請用紙」は選手受付に備えている。該当レースの 1 時間前までに「テーピング等申請用紙」をリゾリューションデスク(招集所付近に設置)に提出し、許可を得ること。
- (4) 水着の取り扱いについては、WPS 規則、WA 規則による。障害上など着用の問題がある場合は申し出ることで例外的に認めることがある。該当レースの 1 時間前までに「規定外の水着使用申請書」をリゾリューションデスクに提出し、判断を仰ぐこと。また、記録の公認については、内容によってその都度判断をする。「規定外の水着使用申請書」は選手受付に備えている。
- (5) 計時のバックアップは、半自動計時装置を使用する。
- (6) 失格による抗議は、公式結果公表後 30 分以内に所定の様式(抗議用紙) 必要事項を記入の上、抗議料 10,000 円(現金のみ)を添えて、リゾリューションデスクに提出すること。(失格の理由を聞くことは抗議ではない。) 抗議が認められた場合、抗議料は返金される。抗議が却下された場合、抗議料は JPSF の所有となる。「抗議用紙」は、リゾリューションデスクに備えている。
- (7) 本大会では上訴審判団を設置する。抗議の判定に対する上訴が可能であり、判定後、30 分以内に所定の様式(上訴用紙)に上訴料 15,000 円(現金のみ)を添えて、リゾリューションデスクに提出すること。上訴が認められた場合、抗議料と上訴料は返金される。上訴が却下された場合、上訴料は JPSF の所有となる。「上訴用紙」は、リゾリューションデスクに備えている。

2 スタートについて

審判長の短い笛の合図で準備し、長い笛の合図でスタート台上がり、「Take your marks」の合図を待つ。背泳ぎ以外で水中スタートをする場合は、短い笛の合図で、直ちに自レーンもしくは近い方のプールサイドから入水し、自レーン内に移動する。飛び込みスタートの時は「Take your marks」の合図の前にスタート台の前縁に足の指をかけて、号砲を待っても構わない。ただし、同じ組で水中スタートと飛び込みスタートの選手がいる場合は、短い笛と長い笛の間が空くため、飛び込みスタートの選手はリラックスして待つこと。(競技の進行上、水中スタートをする選手でプールサイドから入水する選手は、自分の選手紹介が終わり次第、プールサイドに移動し、入水の準備をすること。この場合、審判長の短い連続したホイッスルの間に入水してよい。)

聴覚障がいの選手のスタート合図は、光刺激式スタート合図システムを使用する予定である。

本大会は、バックプレート付きのスタート台およびバックストロークレッジを使用する。調整は各自で行い、確実に固定されていることを確かめること。

3 ゴールと退水について

- (1) ゴールタッチはタッチ板の有効面に確実にタッチすること。
- (2) ゴール後は退水合図(短い2回のホイッスル)後、横から退水すること。

4 競技順

競技は、女子・男子の順に大会プログラムの順序で行う。

5 招集

- (1) 招集は、プールサイドで行う。公表された各自のレース開始時刻の15分前までに招集所に行かなければならない。招集時間に遅れた者は棄権とみなすので、各自招集時間を確認すること。また、競技の進行状況にも注意すること。
- (2) 当日競技を棄権することになった場合は、各自のレース開始時刻の1時間前までに「棄権届け出用紙」をリゾリューションデスクに提出すること。「棄権届け出用紙」は、選手受付に備えている。
- (3) 各選手は、自レーンで脱いだ衣類等をすべて設置してあるカゴに入れること。その際、義足等の退水時に必要となるものはカゴに入れないこと。

6 競技エリア内入場許可

- (1) スタートリストにコードオブエクセプション(以下「CoE」という。)
「T」、「A」、「Y」の記載のある選手は、必要な介助のために介助者が競技エリア内に入場できる。これらのCoEを持たない選手においては、介助者が競技エリア内に入場するためには、各セッション開始時刻の1時間前までに「介助者等競技エリア内入場申請書」をリゾリューションデスクに提出し、認められなければならない。なお、今大会では原則として競技役員による介助は行わないので、介助者、タッパーは選手側が準備すること。また、S/SB/SM14、15クラスは、介助者の競技エリア内入場は認めない。「競技エリア内入場許可申請書」は選手受付に備えている。
- (2) 介助者がいない選手の義足や杖、車いすなどは競技役員で移動する。

7 競技時間

競技時間は、あらかじめスタートリストに記載された時刻で行う。ただし、競技が早まったり、遅れたりするので、進行状況に注意すること。

8 プログラム訂正について

氏名、所属の訂正がある場合はそれぞれ「プログラム訂正用紙」に記入し、競技開始1時間前までにリゾリューションデスクへ提出すること。なお、エントリーと異なる参加種目の変更や追加は原則認めない。「プログラム訂正用紙」は選手受付に備えている。申請用紙はJPSFのホームページからもダウンロードできる。

(<http://new.paraswim.jp/>)

9 抗議について(クラス分けに関する抗議は別の定めに従うこと)

- (1) 競技開始前に判明した事項は、出発合図の前に文書で審判長に提出しなければならない。
- (2) 競技終了後の抗議は、本要項「1 競技規則と競技方法」(6)、(7)に記載のとおりとする。
- (3) 抗議用紙、上訴用紙は、リゾリューションデスクに備え付けている。
- (4) 公式掲示は、速報板に掲出された時刻をもって公式掲示とする。

10 表彰について

- (1) 各種目(リレーの場合はチーム)の優勝者に金メダルが授与される。2位には銀メダル、3位には銅メダルが授与される。ただし、参加申込者が2名(チーム)までの種目は1位のみ、3名(チーム)の種目は2位までにメダルを授与する。
- (2) 表彰状は授与せず、完泳者には記録証を授与する。
- (3) リレー優勝チームには、優勝カップを授与する。

- (4) オープン参加(JDSA)の選手は、表彰の対象としない。
- (5) 表彰式は、表彰所において随時行われるため、入賞者は、その競技の終了後に表彰所に行くこと。

11 速報の掲示及び記録証の配布

- (1) 速報は、2階ロビー4に掲示する。
- (2) 記録証は、2階ロビー4の記録証配布所で希望する者に対して配布する。参加当日の全競技終了30分以内に各自、取りに行くこと。なお、記録証の郵送は、行わない。

12 リレーオーダー等について

- (1) 各チームの責任者は、リレーオーダー用紙をその種目の開始1時間前までにリゾリューションデスクに提出すること(ポイント記載や選手の重複出場など間違いのないようにすること。)
- (2) リレーにおける第一泳者の記録は計測しない。

13 前日(公式)練習及び大会当日のウォーミングアップについて

- (1) メインプールでの練習時は、クラス別に指示されたレーンを使用すること。(サブプールはレーン指定しない。)
- (2) 練習に使用できる用具は、ビート板、プルブイ、フィン、シュノーケルとする。パドル、コード類は使用できない。
- (3) 練習時間は次のとおりとする。

前日(公式)練習

11月8日(金) 13:00~17:00 ※12:50 受付開始

※メインプール、サブプールが使用できる。

※公式スタート練習は行わないが、メインプールにおいてダッシュレーンを設置する。

※メインプールでは、クラス分けを実施するレーンを除き、クラスごとに使用できるレーンを指示する。

大会当日のウォーミングアップ

プールサイドに入ることができるのは選手、コーチ、タッパーのみとする。入退水介助者は入退水の時のみとする。

(1) メインプール(50m×10レーン 水深2m)

11月9日(土) 8:30~9:45 および昼休み

11月10日(日) 8:30~9:45 および昼休み

※9:00~9:30に公式スタート練習を行う。

※開始式、セレモニーの間は使用できない。

(2) サブプール(25m×8レーン 水深110~135cm)

11月9日(土) 8:30~競技終了後30分まで

11月10日(日) 8:30~競技終了後30分まで

※サブプールでの飛び込みは禁止する。

14 監督者会議について

- (1) 監督者会議は行わないので、この二次要項をよく読んでおくこと。
- (2) 競技についての質疑がある場合は、本部へ問い合わせること。

15 クラス分けについて

本大会では、指名された選手に行う。

16 水着・所属表示等について

- (1) 本大会の水着に関する規程は、WA及びWPSの競技規則による。本要項「1 競技規則と競技方法」(4)の許可を得た選手以外は、WA公認の水着を着用すること。
- (2) 水着のチェックは招集所で行う。

- (3) 規定に外れる水着を着用して泳いだ場合の記録は、すべて参考記録扱いとする。
- (4) 着用できる水着は 1 枚のみとし、水着の重ね着は禁止する。
- (5) 水着へのテーピングおよび 2 次加工は禁止する。
- (6) 障がい上の理由で公認マークのついていない加工された水着または公認マーク剥離の水着を着用する場合は、事前にリゾリユーションデスクに届け出て、許可を受けなければならない。
- (7) 競技エリアで着用するユニホーム等の表示は、介助者、スタッフを含め、次のもの以外は認められない。
- ① 自分の氏名、所属の名称やマーク
 - ② 国旗・国または地域の名称、都道府県や市町村の名称やマーク
 - ③ 公式競技会および公認競技会のシンボルマークや主催者が認めたもの
 - ④ 水着、ウェア等のメーカーロゴ・マーク
- ※それぞれの大きさや数については、【表】のとおりとする。

【表】

マークの種類/用途	水着についてよい大きさや数	ウェアについてよい大きさや数	その他のものについてよい大きさや数
自分の氏名、エントリーした所属の名称、マーク、国旗・国または地域等の名称やマーク、公式・公認競技会のマークや主催者が認めたもの	50cm ² 以内で 1 か所	大きさ、数に制限なし	大きさ、数に制限なし
メーカーのロゴ・マーク	メーカーロゴまたはマークは 30 cm ² 以内で 1 か所	メーカーロゴは 40 cm ² 以内で 1 か所。マークは 20 cm ² 以内であれば数に制限なし	メーカーロゴは 20 cm ² 以内で 1 か所。マークは 20 cm ² 以内であれば数に制限なし

- ※1 それぞれの大きさ(サイズ)は着用前の面積とする。採寸方法は正方形または長方形とみなし、縦×横で面積を求める。それぞれの面積は最大を示し、その範囲内であれば大きさに規定はない。
- ※2 ワンピース水着の場合は、ウエストより上に 1 つ、ウエストより下に 1 つ許され、ツーピース水着の場合は、上部に 1 つ、下部に 1 つが許される。ただし、これらの商標名は相互に隣接しておくことはできない。

17 アンチ・ドーピングについて(以下、JADA からの注意喚起文による)

- (1) ドーピング検査の実施については、本大会実施要項の記載による。
- (2) ドーピング検査の結果、陽性反応となり、違反が認められた場合は、記録は認められず、メダルは返却しなければならない。

18 トレーナーブースについて

- (1) トレーナーブースは設置しない。
- (2) 選手のパーソナルスタッフによるケアは最小限とすること。
- (3) マッサージベットの持ち込みは禁止する。

19 開始式、閉会式、通信記録会及び優秀選手の表彰

- (1) 開始式は、第 1 日目(11 月 9 日) 10時からプールサイドにおいて行う。
- (2) 閉会式は、第 2 日目(11 月 10 日) 全競技終了後速やかにプールサイドにおいて行う。
- (3) 通信記録会及び優秀選手の表彰は第 1 日目(11 月 9 日)の昼休みに行う。

20 その他

- (1) 選手ならびに同行者は1階入口より出入りする。選手の介助者は選手と一緒に入場し、受付をすること。
- (2) 車いすの貸し出しは行わない。各自対応すること。また、更衣室やプールに入る際は十分に汚れを落として入ること。
- (3) 選手の休憩・待機場所は、2階南側観覧席とする。
- (4) 主催者より許可を受けた者以外の競技エリア内への入場はできない。
- (5) 更衣は、メインプール更衣室を利用すること。(異性間更衣室あり)
- (6) 更衣室のロッカーは使えないので、貴重品等は各自で管理すること。また、貴重品に限らず紛失盗難することもあるため、荷物の管理は気を付けること。紛失盗難などの責任は一切負わない。
- (7) 更衣室の使用はレース出場時のみとし、荷物を置いたままにしないこと。
- (8) 水温は28度前後とする。室温は27度程度とする。全館換気が行われているが状況により窓を開けて換気することがあるので、各自保温に留意すること。
- (9) メインプールのゴール側のコーナーに水深を浅くするための赤台を設置する。
- (10) 選手には開催期間(前日練習日も含む)を通して1枚のアクセシビリティカード(ADカードという)を発行する。紛失しないようにすること。バックストロークレヅの使用の有無について各自で記入しておくこと。
- (11) 大会期間中における事故または傷病については、応急処置のみとする。その他の責任は負わない。
- (12) 競技の撮影について
 - ① 本大会に関する知的財産権(大会写真、動画等)は主催者に帰属する。主催者の許可なく個人的な利用(非営利目的以外)以外での使用は認められない。
 - ② 介助者や選手等による撮影場所は、2階観覧席からとする。撮影機器は携帯用カメラレベル(携帯電話・スマートフォン・レンズ一体型コンパクトデジタルカメラ)とし、フラッシュを利用した撮影等、競技の妨げになるような撮影はしないこと。また、1眼レフやレンズ交換ができるタイプのカメラ及びビデオカメラ、赤外線フィルター、赤外線装置を使っただけの撮影は禁止する。
 - ③ 不審な撮影行為は、係員が事情聴取をする場合がある。内容によっては、所轄警察署に通報する。不審な撮影行為を見かけたら、係員に連絡すること。
 - ④ 個人情報保護・迷惑防止条例等に抵触しないように十分注意をすること。
 - ⑤ 撮影した写真・動画については、ご家庭・チーム内で鑑賞することにとどめ、許可を得ていない自分以外の方が写りこむ写真やJPSF協賛企業の広告以外の広告物が写りこむ写真のインターネット(SNS等)へのアップロードは禁止する。また、動画のアップロードは禁止する。
 - ⑥ メディアの撮影は事前に申請し許可を得た場合のみとし、当日報道受付でメディアガイドを受け取り、それに従って行うこと。決められた場所以外での取材・撮影は禁止する。
- (13) 本大会では、YouTubeで競技状況の映像などを配信するので、多くの人にも見られている。選手としての自覚をもって行動をするなど、その旨心得ること。
- (14) 本大会のプログラム記載事項、記録などはJPSFホームページで公開する予定である。その他、JPSFの個人情報取り扱い方針に基づいて行われる。
- (15) ゴミはすべて持ち帰ること。
- (16) 駐車場には限りがあるので、できるだけ公共交通機関を利用すること。またJR草津駅から徒歩で来場する場合は、大通りの歩道を通行すること。
- (17) 忘れ物は、選手受付に一時保管する。大会終了後は神戸事務所で保管するが2週間を超えた場合は処分する。忘れ物等の問合せは直接、選手受付へ申し出ること。大会終了後は神戸事務所に連絡すること。
- (18) 大会期間中にアスリート委員会主催のトークイベントを2階スタジオ2において行う予定である。
- (19) 大会期間中に「ふくのわプロジェクト(古着を寄付する)」を2階ロビーで開催しているのでご協力ください。